

重点目標	具体的取組	主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果や今後の課題
1 授業実践力の向上 (教科指導の充実)	① 国語科「読むこと」の資質・能力向上を目指した授業改善に取り組みながら、自分の担当している教科の授業にも目を向け授業改善に取り組む。☒	研究研修課	担当している教科で授業計画シートを1枚以上書き、他の教員の作成したものを含め検討を3回以上行った教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	担当している教科で授業計画シートを1枚以上書き、他の教員の作成したものを含め検討を3回以上行った教員の割合 91% 判定 A	授業を実施している教員の91%が、自分の担当している教科で授業計画シートを書き、他の教員の作成したものを含め3回以上検討することができた。 シートには「目指す姿」「教材選択の理由」「主体的・対話的で深い学びについてのポイント」等の項目を設けることで、自分が目指す授業や協議の視点を明確にして検討を行えた。合わせて「読む力」を育成するための発問に注目して、発問を考える際のポイントを整理することができた。普段の発問を振り返りながら検討できたという意見もあり、授業改善につながった。
2 地域社会との連携	① 学校、児童、保護者等の関係者が交流及び共同学習の意義やねらい等について共通理解し、実際の活動において主体的な活動を促す交流活動の充実に取り組む。	小学部	当日の活動の中で児童が主体的に活動する姿が見られたり、活動後の振り返りで児童が「楽しかった」等の感想を述べたりすることができた割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	当日、児童が主体的に活動する姿が見られたり、活動後の振り返りで児童が「楽しかった」等の感想を述べたりすることができた割合 100% 判定 A	全ての居住地校交流、学校間交流の活動の中で、児童が自ら交流校の友達や教師と積極的に関わるなど主体的に活動する姿が見られた。活動後の振り返りでは児童が「楽しかった」「また、行きたい」などの感想を述べたりすることができた。どの交流においても交流校との事前打ち合わせを3回以上行った。両校で児童の配慮事項を共通理解し実態把握した上で、両校の児童に合った活動を実施できたことが成果につながったと考えられる。また、昨年度から継続して行えたケースや学校間交流を2回実施できたことも児童同士の関わりを深め、楽しめる活動につながったと考える。
	② 生徒が地域で販売活動を行い、地域社会で様々な人と主体的に関わる姿勢を育成する。	中学部	校外での販売活動を通して、地域の様々な人との関りにおいて成長が見られた生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	校外での販売活動を通して、地域の様々な人との関りにおいて成長が見られた生徒の割合 88% 判定 A	JA能登わかばへ出向いての販売活動を木工班の生徒を対象に2回行った。生徒自身の振り返りシートと、教員チェックリストの分析から、1回目より2回目の方が「販売活動への意欲が高まっている」「手際よく準備ができるようになってきている」「お客さんとの関わりが増えている」等の結果が得られた。 事前事後学習を含め、繰り返し行うことが生徒の成長につながると考える。今後も販売活動を複数回行い、生徒が主体的に地域社会と関わる姿勢を育成していきたい。

重点目標		具体的取組	主担当	実施状況の判断基準	判定基準	集計結果	成果や今後の課題
2	地域社会との連携	③ 生徒が高等学校・農業法人等と連携した実習を行い、やりがいを感じ、地域に貢献する態度の育成に取り組む。	高等部	事後のアンケートで「取り組んでみてよかった」等やりがいを実感した生徒と教師の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	「取り組んでみてよかった」等やりがいを実感した生徒と教師の割合  100% 判定 A	今年度12月までに農業法人・農業系高校と連携した現場での実習を計22回実施し、生徒・教師ともやりがいを実感することができたと回答した。生徒からは「多少しんどさはあるがやりがいがあった」「農業が無くなることは食料が足りなくなるので大変」等の感想が挙げられた。教師からは「商品価値を高める技術指導は作業学習においても生かされる」との意見があった。 一方で生徒の将来的な農業への関心については、「まだ就労できるほど農業に詳しくない」「体力的に自信が無い」などの意見もあり、就労に向けての課題は多いと考える。生産から消費の流れを学び、進路で他産業を希望して「地元のために働きたい」との感想が聞かれたが、地域に貢献する態度の育成にまでは至らなかった。
3	安心・安全な学校づくり	① 中・高等部の該当の生徒を対象にSNS等ネットワーク使用において、他者とのやりとりを適切に行う学習に取り組む。	生徒指導課	ネットワーク使用で他者とのやりとりを適切に行う学習を、各期に1回以上取り組んだ学級の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	各期に1回以上、ネットワーク使用で他者とのやりとりを適切に行う学習を行ったクラスの割合 100% 判定 A	学年や学級活動を中心に各期1回以上実施できた。今年度は震災の影響で企業等と連携した取り組みが途中で中止になってしまったが、学級活動等様々な場面において指導を実施できた。生徒指導課としても情報教育集会や人権擁護委員協議会と連携した安全教室を企画し実施することができた。相手の許可なくSNS上に写真や動画をあげてはいけないことや、短い言葉だけだと誤解を招きやすいことなどを学習し、どういったやり取りが良くないのかを話し合う場面も見られた。 来年度以降も企業等と連携し、継続した指導ができる体制づくりの工夫が必要である。
		② メディアやICT機器の活用において、児童生徒の心身の健康を保つ適切な関わり方が身につく学びに取り組む	健康推進課	6月10月に提出してもらった「すこやかカレンダー」の家庭の提出割合が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	【達成目標 B以上】	すこやかカレンダーの提出率  83% 判定 A (6月82% 10月84%)	2回とも振り返りに担任からのコメントを載せたことで提出率が上がった。担任の言葉が保護者にとって大きな支えとなっていることが分かり、心身の健康の保持増進に向けた取り組みは、学校と家庭とが連携することが必要であると考えている。 この取り組みの好事例として、携帯電話の長時間使用に保護者が声掛けをするようになったり、生徒が自主的に時間を決めて使用するようになったという報告があった。 具体的取り組みで挙げた「心身の健康」では、目の健康についての学びを深める予定であったが、保健日よりや掲示物での提案にとどまった。今後は積極的な学びの機会の提案を行いたい。